

小中学生を対象としたGIAHS教育の取り組み

国連大学サステナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティングユニット
まるやま組、能登SDGsラボ

① SDGs三井のごっつおプロジェクト（2019年度・まるやま組主導の共同プロジェクト）

「能登の里山里海」 GIAHSでの祭りの食文化を季節を通して紹介する絵本「ごっつおをつくろう」¹（UNU-IAS OUIK2018年発行）を題材に石川県輪島市、三井小学校の児童たちと一年を通して季節ごとの地域の食文化を体験しました。伝統的な知識の継承や自然環境の変化についても学び、自分たちの地域の課題と持続可能な未来について考えました。



5月

- ・山菜のワラビ探し
- ・ワラビの塩漬け作り
- ・笹船作り

地域の方々に教えてもらいながら、自分たちで収穫した山菜で郷土料理を作りました。

6月

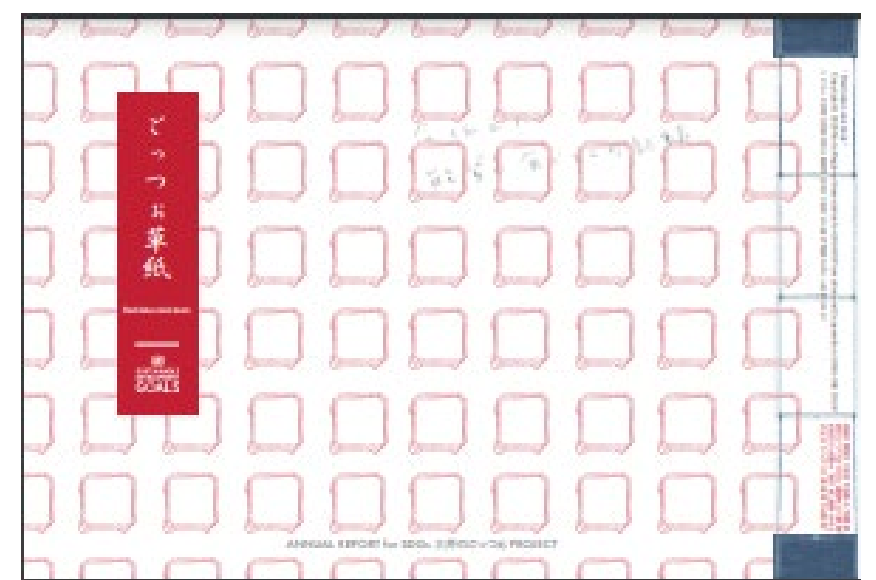
- ・ゴリの種類や、採集道具、川のつながりを学ぶ
 - ・ゴリすき体験
 - ・ゴリの試食
- 地域の方にゴリの捕り方、下ごしらえ、調理の方法まで昔ながらの方法を教えてもらいました。

7月

- ・あごだし作り体験
 - ・あごを焼く珪藻土で作った七輪について学ぶ
 - ・トビウオを捕まえる道具作りについて学ぶ
- 珠洲市にて現地の小学生と共に魚をさばくところから作りました。

7月

- ・小豆の種蒔き
 - ・水中昆虫調べ
 - ・レッドデータ記録
- 田んぼの畔に種を蒔き、周囲の自然環境を調査しました。絶滅危惧種や外来種など「いしかわレッドデータブック」を元に学びました。



10月

- ・かち栗づくり
 - ・江堀り後の変化
 - ・小豆の害虫
 - ・里山の危険な生き物
- 秋の里山の恵みを使った保存食を作り、田んぼの周りに潜むマムシや害虫や自然環境について学びました。

11月

- ・ワラビの塩漬けの戻し方
 - ・世界の食事情
 - ・地球の食卓
 - ・世界のごっつお
- 世界に目を向けてフードロスなどの食糧問題について学びました。スイスやブルキナファソの食事も試食しました。

12月

- ・田の神様のまつり「あえのこと」に参加
- 奥能登に伝わる農耕儀礼「あえのこと」（ユネスコ無形文化財）は継承が困難になっています。児童たちは一年かけて集めたごっつおを感謝の気持ちを込めてお供えしました。

「ごっつお草紙 Red data cook book」²

一年を通して行った教育活動を一冊にまとめました。（企画・編集：まるやま組、発行：国連大学OUIK）食を通して地域の「生物文化多様性」を楽しめる内容です。今後の教育活動のガイドブックとしても使える内容です。

② 能登xフィリピン、イフガオGIAHS国際交流プログラム（2020年度より継続中・能登SDGsラボとの共同プロジェクト）

フィリピン、イフガオの棚田はGIAHSに認定されており、予てより里山マイスタープログラム（金沢大学）を通じた交流があります。このプログラムでは珠洲市のSDGs学習と連携し、児童たちの国際的な学びや交流を深めるオンラインプログラムを開催しています。お互いの国や地域、文化や生活様式の違いだけでなく、自分たちの地域のGIAHSや、SDGs達成に向けての活動の紹介も行っています。



珠洲市上戸小学校とイフガオ、キアガン小学校（2020年度）

- ①自己紹介と地域の紹介
 - ②地域の食文化の紹介
 - ③文化活動の紹介
- 3度にわたり交流を深め、お互いのGIAHS地域や文化について学びを深めました。

珠洲市緑丘中学校とイフガオ、ゴハン・ナショナル・ハイスクール（2021年度11月第一回目）

お互いに英語で自分たちの地域の特色やSDGsに対する取り組み、地域の環境について紹介しました。次回の交友は1月を予定しています。

珠洲市正院小学校とイフガオ、ナヨン小学校（2021年度11月第一回目）

自分の好きなものや学校生活について紹介しました。12月に予定されている次の交流では地域の食文化やGIAHS,SDGsへの取り組みについて紹介しあう予定です。

今後の展望

- ・GIAHSを活用にした教育のプラットフォームづくり→GIAHS内の他の地域でも同じような教育活動が行えるような体制
- ・里海、里山間、国内外のGIAHS認定地域との学び合いを継続・発展
- ・能登SDGsラボや地域のコミュニティと連携し、SDGsを軸に地球規模の問題解決にも貢献

